



情報発信に力を入れ、 「削ろう会」成功を

情報発信に力をNPO法人「みんなでお城をつくる会」
理事長 鈴木博晶



わたしたち「NPO 法人みんなでお城をつくる会」が、創立総会を催してから2014年2月ではや1年が経ちます。

「小田原城」という、全国的にもその姿を知られたまちのシンボルを、小田原の技と自然と人の縁を生かして、市民の力で「本物に再生していきたい」という思いで、この活動が始まりました。

小田原は、歴史もあり、森・海・川という豊かな自然にも恵まれた土地です。このまちに住み暮らすわたしたちが、その価値の象徴となる「木造の小田原城」という夢の実現に向けて1歩を踏み出したばかりです。

大きな夢を実現するために動き出したわたくしたちですが、

この1年は、参加して下さる会員の力を生かすために必要な事務局体制を整えるなど、組織づくりに力を注いでまいりました。正会員、賛助会員はまだ多くはありませんが、着実に入会者をお迎えしております。

2年目となる2014年は、次の4点に重点を置いて活動を展開していきます。すなわち、最初に、構造図に匹敵するであろう天守閣模型の研究に成果を得ること。第2に、多くの方々と小田原とお城の歴史を学ぶこと、第3に寄付の体制を整えること、第4に天守の森づくりを進めることに、力を入れて参ります。

会として最も大きなイベントは、11月に開催が予定されている

「全国削ろう会小田原大会」です。「削ろう会」とは、極限まで薄いかな屑を出すことを中心に、手道具や伝統技術の可能性を追求する会です。この大会が開催されることで、建築技術伝承のため、伝統的木工法の技術を担う人材を育成する「職人学校」の充実に弾みがかかります。そして、江戸・名古屋・駿府など、天守木造再建を目指す地方の方々とも連帯を密にして、大きなうねりを起こします。

一方、実践の報告・計画の構想も、まだまだうまく小田原の市民のみなさんに発信できていないことを自覚し、情報発信に大いに心を配って参ります。今年・2014年は、干支の「午」(うま)にちなみ、「みんなでお城をつくる会」が本格的に走り始める年にいたしたく存じます。

2014年3月から 小田原城ゆかりのツアーが始まります！

**EVENT
PICK UP!**

出掛けよう



小田原城ゆかりの場所を訪ねるツアーは、歴史や生物、民俗学に詳しい本会理事でもある田代道彌先生みちやの案内で小田原に限らず遠く浜松や甲府、東京にも出かけます。

田代先生の案内は 歴史の糸をつむぐように地名の由来からその当時の人たちの暮らし方までがタイムスリップしたかのように楽しく見えて来て想像が膨らみます。大人に限らず中、高生からでも大丈夫です。

しかし、何と言っても小田原城の総構を見て聞いて歩くと、中世城郭の面白さにはまること間違いありません。戦国時代最大級のだいがいかく そうがまえ小田原城大外郭(総構)から石積みしょうじぼりの近世城郭まで、小田原城は見ごたえたっぷりのお城です。

同時に北条前後のつながりを知ることで歴史が立体的に見えてきます。是非ツアーに参加してみてください。百聞は一見にしかず！

3月18日、4月20日 ツアー申込 始めました！

3月三島市にある山中城しょうじぼりは、障子堀をはじめ、北条氏が得意とする中世の築城技術を垣間見ることができます。山中城を見学し戦国時代の息吹を感じてみましょう。

4月東京に行き小田原藩主大久保家の上屋敷、旧芝離宮恩賜庭園と江戸城天守跡。そして、江戸に在った小田原町を訪ねます。

Tel: 0465-46-8944
info@odawara-oshiro.org

EVENT Calendar

出掛けよう



日付	イベント内容
3月18日(火)	小田原北条氏の支城 山中城をめぐる
4月20日(日)	江戸に行った小田原を訪ねる
5月25日(日)	石垣山一夜城と早川石丁場群をめぐる(親子ツアー)
6月20日(日)	三溪園の原富太郎と松永安左エ門とのつながりを探る旅
11月8・9日	第30回全国削ろう会 小田原大会

INTERVIEW

会員の声



正会員

山本 篤志さん

平塚在住の私が小田原城と小田原の町を好きになったきっかけは、たしか小学校 2 年か 3 年生のころ、小田原の栄町に住む叔父をたずね、小田原の叔父に小田原城を案内して頂いてからとなります。たいていの小学生はその当時まだあった動物園や天守の裏にある遊園地に気を取られてしまうのですが、私は「お城」の虜になりました。

両親や祖父母にせがんで千円札をもらい、一人電車バスを乗り継いで小田原に向かうなどしましたが、まだ母親に手を繋いで歩くような子供がたった一人でたずねてくるものですから、親戚を驚かせてしまい、大変可愛がって頂きました。叔父と二人で星崎記念館周辺の小田原城の瓦を拾い集めたり、当時まだ公園化されてなかった石垣山一夜城や早雲寺などに連れて行って頂きました。叔父が仕事で自宅にないときは叔母から自転車を借りて城址公園に向かったのを良く覚えています。

その頃の小田原のまちは非常に活気溢れており、私の地元平塚とは違った華やかさが私の幼い目に映っていました。学年が上がるにつれて私の興味も「お城」から他のものに移り、次第に足を運ばなくなっていきましたが、30 代半ばにウォーキングを始め「豊臣秀吉が攻めきれなかった、小田原城総構を歩いてみよう！」と思ったのがきっかけで再び小田原へと足を

運ぶようになりました。「こんな素晴らしいものが小田原のまちに残されているのか」と総構を初めて 1 周完歩した時の感動は今も忘れられません。

一方、変わり果てた小田原の市街地の光景に驚き残念な思いもしました。小田原のまちを歩いていくなかで解ってきたことは、まち全体が全長 9 km の総構で囲まれた小田原城であることと、小田原が西相模の主要都市として発展を遂げられたのは、東海道に面した立地条件も然ることながら、築城から 500 年以上の歴史を持つ小田原城とその城主がこの地に君臨し幕末まで領国経営の中心都市として機能し続けられたという歴史的背景があるということです。こうした歴史的背景を知ることには今後のまちづくりへの活用の上でも重要であり、郷土の誇りとして語り継いでいかなければならないのです。

そして小田原城の中心に聳え立つのが小田原のまちの象徴「小田原城天守」です。「小田原城天守」は年間 46 万人以上の入場者数を数え全国のお城の入場者数の順位では 10 位以内に入る数字を誇ります。昭和 35 年に鉄筋コンクリート製で造られて以来、築 50 年以上が経過し耐震改修工事に迫られています。しかし、歴史と文化を誇るまち小田原に相応しい天守は、やはり木造で再建された天守でしょう。小田原



城天守の木造化には様々な高いハードルが置かれていますが、天守も含めて小田原城をまちづくりに活かさない手は無いです。そして、この小田原のまちは必ず復活すると私は信じています。

皆さん！大きな夢の実現へ向けて頑張りましょう！！

山本さんが好きなお城の写真



About Us

ご案内



特定非営利活動法人 「みんなでお城をつくる会」

〒250-0004神奈川県小田原浜町1-1-46

<http://www.odawara-oshiro.com>

Tel/Fax: 0465-46-8944

E-mail: info@odawara-oshiro.org

天守閣木造化は歴史的遺産を受け継ぎ未来へつなげることです。しかし、その文化を未来につなげるためには経済的価値と、文化的価値と、市民参加型の新しい公共事業の価値を見出さなければなりません。逆に言えば天守閣木造化を切っ掛けに、この町の歴史的遺産を復元、再生することでこの3つの価値を生み出します。その価値は、大量生産、大規模資本による市場の集約化など地域社会とは切り離されたこれまでの産業構造とは逆向きの、地域経済を再生し持続可能な社会をつくる方向です。

私たちの使命は持続可能な地域社会を再構築することです。天守閣木造化はそのシンボルとなるでしょう。それが私たちの使命です。

「お城をつくる会」をご友人に紹介しませんか？

ご友人に「小田原城が好きな方」「是非お城をつくる会をご紹介したい方」がいらっしゃいましたら、お名前、ふりがな、電話番号をご記入頂き、お城の会事務局までFAX(0465-46-8944)下さい。

事務局からご友人へご連絡させていただきます。

- 賛助会員は、年会費一口:1000円からご入会いただけます。(入会金はございません)
- 正会員は、入会金:20,000円、年会費:20,000円です。

紹介者(会員様)のお名前:

ご友人のお名前	ふりがな	電話番号